



自然観察

No.102
2012.6月

目	次	
・あなたの経験と知識をみんなのものに	会長 横山 武彦	2
・2012年度総会終わる		3
・2011年度決算報告		4
・2012年度予算		5
・総会記念講演「北海道での両生類・爬虫類の観察」		6
・地方研修会(旭川)の案内		9
・「第23回滝野自然の集い」参加のお願い		9
・フィールドニュース 兵庫・中標津・江別		10
・ウォッチングレポート		12
・参加者の声		14
・会計からのお願い		14
・ウォッチングプラン		15
・理事会だより・連絡先		16



エゾフクロウの5つ子 成長が楽しみ！！野幌森林公園にて

あなたの経験と知識をみんなのものに

会長 横山武彦



去る4月15日、今年度の総会が開催され、本号に掲載のように、昨年度の活動の報告がなされ、今年度の活動計画、2012・2013年度の役員が決まりました。

年4回発行されている会報には、観察会や研修会の報告や講演会の記録、開催事業の案内や結果報告、会員各位からの提言、投稿などが掲載され、この自然観察協議会が組織としてだけでなく、会員各位の活動の様子や考えを身近なものとして伺い知ることができます。これらから、会員各位が、より充実した活動に発展させていただいているのではないかと確信しているところです。

会員は今年4月の総会時で318名、2003年10月には425名でしたので、この8年半に100名減少したことになります。会員の増加は自然観察指導員講習会受講者が講習会終了後に入会することで確保されていましたが、近年、講習会が開催されなかったこと、しかも受講者が以前より多くないことなどにより、入会者の大きな増加は見込めない状況です。

昨年、2年ぶりに指導員講習会を恵庭市で開催し受講者27名のうち22名が入会しました。来年も開催するよう準備しているところですが、開催には会員のご協力を欠かせません。多くの参加者を得て、受講者を会員として迎えることができるように期待しています。

一方、退会は高齢によるもののほか、学生時に入会した会員の卒業・就職後の離道や音信不通による退会が多いのですが、会員各位には、会員であり続けることのメリット、活動の喜びや会員で良かったとの思いを感じるように情報を届け、仲間としてともに活動する喜びを分かち合えることができるようにしたいと願っています。

観察会への参加や開催は会員としての大事な活動の一つですが、観察部会からの報告によりますと、観察会への参加者数は減少傾向が続き、参加者の高齢化も顕著で、会員の参加者数の減少傾向もみられます。また、会の主要な活動として22回も開催されてきた「滝野の集い」も参加者数の減少や参加する会員の固定化傾向がみられます。10年ほど前はこのような活動は当会のほかではあまり見られませんでした。現在はさまざまな団体により展開されていることも参加者の減少の一因と考えられます。しかし、これらの活動は当会の会則にある「自然をとうとび、自然に学ぶ我々は、自然観察会活動をとおして多くの人々と自然について語り、自然に親しみながら、自然と調和する方法を探求し、このかけがえのない自然をより良い姿で子孫に残そうとするものである。」とする目的を最も基本的に踏まえた活動です。私たちは、参加することにより会員相互に経験の交流や知識の伝達、人とのつながりの拡大、コミュニケーション力がつくられるなど、自然観察指導員としての資質や力量を高めてくれます。

当会は2014年、創立30周年を迎えます。時は移り替わり、社会の変化もめまぐるしい昨今ですが、会の歴史には、変化に応じた取り組みとともに、大切なことで変わらず守ってきている取り組みがあります。会員のみなさんの活動の中で、経験と知識が活かされ、当会の活動がさらに充実・発展していくことを願っています。

2012 年度総会終わる

2012 年度北海道自然観察協議会総会は、4 月 15 日(日)に札幌かでの 2.7 で開催されました。総会では、新年度の 2012 年度事業計画案並びに予算案の決定と役員を選出がそれぞれ行われました。

引き続き講演に移り日本爬虫両生類学会会員の徳田 瀧弘氏による「北海道での両生類・爬虫類の観察」と題した報告が行われました。

年度末で確定した 2011 年度決算報告、監査報告、2012 年度予算を掲載します。

2011 年度事業報告及び 2012 年度事業計画については、前号の 101 号をご参照ください。

なお、役員の変更では、新会長に横山 武彦氏(前副会長)が選出されました。

理事、監事の役員名簿は以下の通りです。

2012 年度～2013 年度北海道自然観察協議会理事・監事名簿

役 職 名	氏 名	住 所	役 職 名	氏 名	住 所
会 長	横 山 武 彦	江別市	理 事	大 表 章 二	磯谷郡蘭越町
副 会 長	※酒 井 健 司	札幌市豊平区	理 事	岡 田 理 江 子	苫小牧市
副 会 長	竹 林 正 昭	北見市端野町	理 事	後 藤 言 行	小樽市
会 計	畑 中 嘉 輔	札幌市豊平区	理 事	※後 藤 義 民	札幌市清田区
総 務	山 本 牧	旭川市	理 事	須 田 節	札幌市東区
事 務 局 長	杉 山 ル ミ	夕張郡長沼町	理 事	高 田 敏 文	札幌市手稲区
観 察 部 長	山 形 誠 一	札幌市中央区	理 事	※中 村 修 一	帯広市
観 察 部 会 計	小 川 祐 美	小樽市	理 事	※原 島 和 子	札幌市白石区
編 集 部 長	※村 元 健 治	札幌市手稲区	理 事	原 部 剛	旭川市
滝野の集い実行 委 員 長	北 山 政 人	札幌市西区	理 事	※三 澤 英 一	北広島市
理 事	有 田 智 彦	苫前郡羽幌町	理 事	安 田 秀 子	石狩市
理 事	安 藤 忍	伊達市	理 事	成 毛 哲 也	札幌市中央区
理 事	池 田 政 明	札幌市北区	監 事	佐 藤 佑 一	札幌市清田区
理 事	石 田 哲 也	札幌市手稲区	監 事	鈴 木 克 司	白老郡白老町

(注)※印の付いた理事は、今回新たに選出された理事です。



2011年度 決算報告

収入の部

単位 (円)

項 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
前年度繰越	455,753	455,753	0	
会 費	420,000	445,000	25,000	会員330名
雑 収 入	200	65,187	64,987	利子 全道研修残金 寄付金
積立金取り崩し	350,000	350,000	0	
観察会参加料	70,000	49,150	-20,850	観察会参加料 (保険・資料代)
合 計	1,295,953	1,365,090	69,137	

支出の部

単位 (円)

項 目	予算額	決算額	増 減	摘 要	
事務費	通 信 費	60,000	52,175	-7,825	切手代 はがき 郵送費
	消 耗 品 費	30,000	18,764	-11,236	用紙 印刷代 コピー代
	会 議 費	50,000	38,745	-11,255	理事会会場費
	小 計	140,000	109,684	-30,316	
報 費	会報郵送費	120,000	107,520	-12,480	クロネコヤマト便 (会報3回発行・名簿発送)
	印 刷 代	200,000	137,865	-62,135	印刷所へ支払い (会報3回発行)
	ラベル代	5,000	1,760	-3,240	会報郵送用ラベル
	封筒印刷代	30,000	27,405	-2,595	会報郵送用封筒
	原稿謝礼代	5,000	0	-5,000	
	通 信 費	13,000	5,540	-7,460	編集部関係の通信費
	消 耗 品 費	2,000	578	-1,422	ゼロテープ
	小 計	375,000	280,668	-94,332	
活 動 費	観 察 会 費	70,000	26,380	-43,620	保険料・配布資料・通信費
	総会開催費	30,000	18,618	-11,382	会場使用料 講師謝礼
	全道研修費	60,000	60,000	0	ガイド謝礼 会場使用料 バス代
	地方研修費	40,000	15,500	-24,500	講師謝礼 会場使用料
	指導員講習会助成	350,000	146,094	-203,906	講師謝礼 交通費 印刷代
	救命救急講習会	16,000	10,850	-5,150	講師派遣費 会場使用料
	用 具 費	20,000	0	-20,000	
	雑 費	9,200	5,280	-3,920	森と自然を守る会
	小 計	595,200	282,722	-312,478	
	30周年積立	30,000	30,000	0	
予 備 費	155,753	5,200	-150,553	編集会議会場使用料	
合 計	1,295,953	708,274	-587,679		

収支残高

総収入 1,365,090円 - 総支出 708,274円 = 656,816円

30周年特別会計

2010年度繰越金	720,000円
2011年度積立金	30,000円
指導員講習会助成	-350,000円
2012年度へ繰越し	400,000円

2012年4月7日

上記の通り決算報告いたします。

会計 畑中 嘉輔 

会計 小川 祐美 

2012年4月7日

上記に関する監査を実施し、適正であることを認めます。

監事 佐藤 祐一 

監事 鈴木 克司 

2012年度 予算

収入の部

単位 (円)

項目	決算額	2012年度予算	増 減	摘 要
前年度繰越	455,753	656,816	201,063	
会費	445,000	420,000	-25,000	会員326名
雑収入	65,187	200	-64,987	利子
積立金取崩し	350,000	0	-350,000	
観察会参加料	49,150	50,000	850	観察会参加費(保険料・資料代)
合 計	1,365,090	1,127,016	-238,074	

支出の部

単位 (円)

項目	決算額	2012年度予算	増 減	摘 要
事務費				
通信費	52,175	180,000	127,825	郵送費 ホームページ管理
消耗品費	18,764	30,000	11,236	印刷用紙代 印刷代 コピー代
会議費	38,745	50,000	11,255	理事会・部会会場費
小 計	109,684	260,000	150,316	
報費				
会報郵送費	107,520	120,000	12,480	会報4回発行(クロネコメール便)
印刷代	137,865	200,000	62,135	印刷所へ支払い
ラベル代	1,760	5,000	3,240	会報発送用ラベル
封筒印刷代	27,405	25,000	-2,405	角2封筒印刷
原稿謝礼代	0	5,000	5,000	
通信費	5,540	12,000	6,460	編集部関係の通信費
消耗品費	578	3,000	2,422	セロテープ 用紙
小 計	280,668	370,000	89,332	
活動費				
観察会費	26,380	50,000	23,620	参加者保険 配布資料 搬送手数料
総会開催費	18,618	30,000	11,382	会場使用料 講師謝礼
全道研修費	60,000	60,000	0	講師謝礼 会場使用料 資料代
地方研修費	15,500	40,000	24,500	講師謝礼 会場使用料 資料代
指導員講習会助成	146,094	0	-146,094	
救命救急講習会	10,850	16,000	5,150	講師派遣費 講師駐車代
用具費	0	20,000	20,000	
雑 費	5,280	15,000	9,720	
小 計	282,722	231,000	-51,722	
30周年積立	30,000	30,000	0	
予備費	5,200	241,016	235,816	
合 計	708,274	1,127,016	418,742	

収支残高

収入 1,127,016 円 ー 支出 1,127,016 円 = 0 円

30周年特別会計

2011年度繰越	400,000円
2012年度積立金	30,000円
2013年度へ繰越	430,000円

講演『北海道での両生類・爬虫類の観察』

講師 徳田 龍弘 氏

講師プロフィール：1975年北海道札幌市生まれ。フォトグラファー、ライター。ヘビを中心に爬虫類、両生類、野生動物を撮影する。野外での動物観察がライフワーク。北海道の爬虫類・両生類の研究も行う。日本爬虫両棲類学会会員、日本自然科学写真協会会員、獣医師。主著・北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑

【両生類と爬虫類の観察方法】

- ・隠れて住むのが大好きな生き物。基本的には表にいつも出ていなかったり、鳥のように飛んだりしないのであまり目立たない生き物。
- ・ヒキガエルやニホンマムシのように毒をもつ種類がいる。
- ・ヌルヌルしてるものが多い、あまり見慣れない動物のため、イメージがよくない。
- ・隠れ住む生き物だが、時期、時間、住んでいる場所などがわかると見つけやすいものもある。両生類・爬虫類で移動能力が一番高いのはカエルの仲間。だがどの種類も移動能力が低く、のたついたり、跳ねる程度で、鳥のように空を自由に飛ぶことができない。海を泳いで渡るのも難しい（ウミガメやウミヘビの仲間は泳げるので稀に北海道の海でも観察される）。

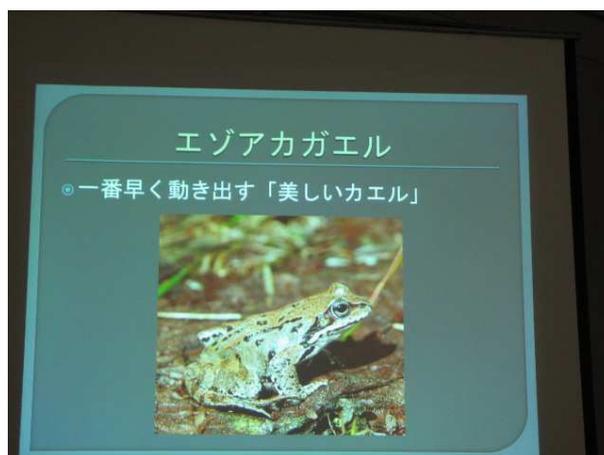
【北海道の両生類・爬虫類相】

- ・北海道独自の種類は1種類のエゾサンショウウオ。世界でも北海道だけに住んでいる貴重な種類。
- ・本州との共通種は8種類。爬虫類はニホンカナヘビ・ニホントカゲ・アオダイショウ・シマヘビ・ジムグリ・シロマダラ・マムシ。両生類はニホンアマガエル。サハリンなどとの共通の3種類は、キタサンショウウオ（釧路湿原）・エゾアカガエル（全道）・コモチカナヘビ（道北に生息）。
- ・移入種はトノサマガエル、ヒキガエル、ミシシippアカミミガメ、トウキョウダルマガエル、ツチガエル、ウシガエル、アズマヒキガエルなど。
- ・北海道では上記合計19種類の爬虫類・両生類が確認されている。

＜エゾアカガエル＞一番早く動き出す「美しいカエル」 和名：エゾアカガエル、英名：Ezo Brown Frog、学名：Rana pirica （Rana の意



味はアカガエルの仲間、pirica はアイヌ語で美しいの意）札幌では3月末～4月の春一番に産卵を始めるのが一般的で、雪解けが進んで水面が開けた池や水たまりに卵を産み、産卵期の雄は昼間でも水に浮いている。暑いのが嫌いなので産卵期が終わると森の奥に引っ込んでいるため見つけづらい。雄の左右の頬に鳴嚢がひとつずつあり、膨らませた所を反響させ、かん高



く鳴く。＜エゾサンショウウオ＞北海道固有種。札幌では3月末～4月に産卵。雪解けに大きく左右される。湧水や流れが注ぎ込む、かなり冷たい水があることが産卵条件で、日当たりのよい場所ではあまり産まない。寒冷地域である道東や高山帯には越冬幼生もいる。高山帯では5月、6月に産卵する個体もある。カエルの卵との違いは卵がチューブ状の卵囊に入っており、卵囊は2本1セットでコイル状に丸まっている。幼生の観察は楽だが成体は産卵期以外に見るのが難しい。夜に産卵し、産卵池の底には雄が待っているため網で捕まえやすい。産卵は山の奥や山際なので熊に遭遇する危険がある。

【両生類に触る時の注意】

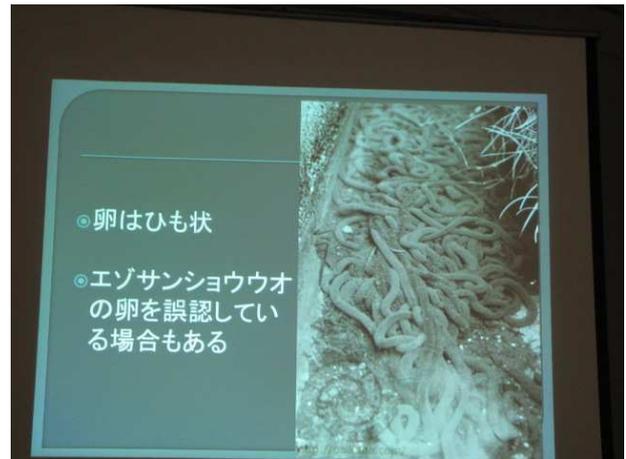
- 体温が低い生き物なので人の体温ですぐ弱る。(手で持つ場合は短時間にする。)
- 皮膚に毒をもつ種類がいる。アマガエル・ヒキガエルは皮膚粘膜から刺激のある毒を分泌するため、必ず手を洗う。
- 卵に影響を与えないような観察をする。持ち帰った時は出来るだけ最後まで飼い、放す時は捕まえた場所に戻す(場所によって遺伝子が違う可能性があるのだ)。
- カエルツボカビ症、ラナウイルスなど(爬虫類ではクリプトスポリジウム症なども)の伝染病が広がる恐れがあるので、基本的には飼育したものは放さないのが好ましい。飼う場合は水槽や器具で他の動物と一緒に飼わない。

＜キタサンショウオ＞世界で広く分布しているが北海道では、エゾサンショウオとの競合に負け追いやられている。日本は釧路湿原のみに生息する。釧路市、標茶町では「天然記念物」に指定している。生息地の釧路市湿原は多くの場所が「ラムサール条約」の登録湿地。湿原を横断する道路やサイクリングロードの脇などで卵が見られることもある。産卵はゴールデンウィーク頃からであるが、今年は雪解けが遅いので釧路は5月中旬までずれ込む可能性があると言われる。卵嚢は時間が経つと青から茶色に変わる。観察は難しい。

＜ニホンアマガエル＞指先の吸盤で登り、警戒心が低く動作が遅いので手でも捕まえられる。アマガエルは表皮に毒があるため、触った手で目を擦ると角膜炎を起こす。3日ほどでオタマジャクシになる。流れのない水の溜まっている場所で5月～9月に産卵する(田んぼ、湿地、小規模な沼)。雄ののどに鳴嚢がひとつあり、下顎を膨らませて鳴く。産卵は数百～千単位で行うが、卵塊は10個前後で形成される。青色のアマガエルは黄色の色素を作ることが出来ない遺伝子異常を持ち、生き残る数が少ない。

＜アズマヒキガエル＞移入種。抱接(羽交い絞めに近い状態)で産卵。北海道は5月の連休頃、函館・旭川・室蘭で産卵が見られる。石狩市・札幌市周辺・旭川市周辺・石狩川流域でも観察される。産卵期終了が3日程度と短い。産卵の行われる池に毎年産み、卵は紐状のためにエゾサンショウオの卵と誤認される場合もある。幼生(オタマジャクシ)は

密生を好む。



＜トノサマガエル＞移入種。吸盤がなく地面を跳ね回りシマヘビの餌になり易い。札幌周辺(平岡公園・西岡公園・北広島・恵庭など)でかなり増えて、田園地帯・大型の公園など開けた湿地帯で見られる。ニホンアマガエルの産卵の終わった後、4月末～5月。幼生は寒さに弱い。飼ってカエルになっても野に放さない。

＜トウキョウダルマガエル＞移入種。岩見沢市の南部で増殖中、田園地帯で見られる。

＜ツチガエル＞移入種。アリを食べることにより臭い成分を出すと思われる。年に複数回産卵するメスもいる。30ほどの卵で卵塊が構成され、水面に浮かび、日が当たると水泡が出てくる。水深のある池や緩くて大きな河川沿いに見られる。水深が深いと底まで水が凍らないため成体も水底で越冬でき、幼生で越冬するものも多い。

＜ウシガエル＞移入種。特定外来生物。食用として養殖されたものが野生化して大きな湖沼で繁殖。主な所は道南の大沼周辺や八郎沼。ウシガエルを生きたまま移動させると外来生物法に抵触する。

【外来生物法】明治時代以降に外国から、持ち込まれ日本に定着した(しそうな)生き物が、日本固有の生態系や人、農林水産業へ危害を加える(と予想される)場合の被害を防止する目的で定められた法律です。捕まえることは違反にならないが、移動すると法律に反する。

＜クサガメ＞移入種。＜ミシシippアカミミガメ＞移入種。外来生物法(要注意外来生物)。カメ類は北海道では全て移入種。北海道のブルーリスト掲載種。希少野生生物のリストが「レッドリスト」とされていることに対して、ブルー(青色)とレッド(赤色)を対照的に捉え、外来種のリストを「ブルーリスト」と命名した。

これは国外移入のものだけでなく、道外（国内）からの移入種も対象。

＜ニホントカゲ＞日本固有種。ツルツルしたズングリムックリの体型。山際のガレ場や岩のごろごろした河原などに見られる。警戒心が強く尾を自切する。幼体の尾は光沢のある青。

＜ニホンカナヘビ＞日本固有種。尾が長くザラザラで林縁の開けた場所や草藪、花壇などでも見られるが、森では見つけにくい。素早い緊張感が低めで、手で捕まえられることもある。＜コモチカナヘビ＞寒い地方に住む。世界的に広く分布するが、日本では道北北部に分布する卵胎生のトカゲ。寒冷地では卵が育つのを待つより腹の中で孵すほうが効率がよいと思われる。

【爬虫類を触る時の注意】

両生類ほどではないが低体温生物のため手で持つのは短めにする。反撃方法は主に「咬む」なので口に注意する。尾の自切に気を付けたい。

【北海道のヘビ】

北海道は5種類ジムグリ・アオダイショウ、シマヘビ、シロマダラ、ニホンマムシ、本州は8種類、世界では2,600種。「カラスヘビ」は種類ではなくシマヘビなどの黒化個体であることが多い。ヘビ類は特に観察が難しく発見は運に左右される。カエルやネズミが生息している近くに生息。ヘビとトカゲの違いは、トカゲは足と（足のないアシナシトカゲがいる）耳孔とまぶたがあり、腹のうろこは背中と同じように小さなうろこが密集している。ヘビは足や耳孔がなく、腹のうろこは大きく一列に並んでいる。南アメリカの熱帯雨林などに生息する体長約10メートル・体重230キロのアナコンダは湿地や水に生息し浮力で移動する。北海道のヘビは体長1.5メートル・0.5キロ程度の大きさ。

＜アオダイショウ＞日本固有種。北海道最大のヘビ。力が強く、ねじ伏せ、締め付けて獲物を食べる。5月から9月の午前中や夕方の日中に見られる。

＜シマヘビ＞日本固有種。茶色い地に黒の縦縞がある。変異に富むヘビで識別が難しく他種と誤認される。神経質で素早く動ける。田園地帯や河川沿いなどカエルが多い場所で見られる。全身が黒化する「カラスヘビ」は多くの場合、シマヘビの個体変異である。

＜ジムグリ＞日本固有種。地面に潜る（表層）など隠れる性質がある。涼しい環境を好むため、5月～6月初旬・8月～9月、朝・夕方・日没に見られる。比較的森林豊富な地域に生息。ヘビ

はネズミやカエルを食するので口の中はきれいではないので、無毒でも咬まれるのは良くない。咬まれたら水洗後消毒をする。

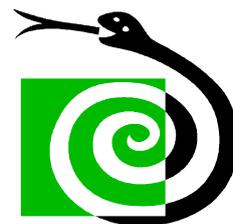
＜ニホンマムシ＞特定動物（危険な動物）。日本固有種。暗褐色で縁どられた銭形斑（5円玉模様）が両体側にある、卵胎生の毒蛇。冬眠前後と妊娠期は日光浴をするので昼間でも見られるが基本は夜行性。咬まれたら治療には血清を使うのが望ましい。噛まれない為に、むやみに岩場や深い草むらに入り込まない。長靴を履く。毒のないヘビでも噛まれるのは良くない。マムシ以外は歯が短いので軍手を履くと歯を通さない。

【ヘビに噛まれたら】

①より心臓側を軽く縛る。冷やさない。②傷口を洗う。傷を広げ毒を出さない。口で吸い出すときは、よくうがいする（口や粘膜に傷があるとよくないので）③走らない（鼓動が早くなり、毒が早く前進に回りやすい）。④落ち着いて行動し、救急車を呼ぶ。治療では血清を使うのが望ましい。

咬まれた証明をするために、マムシを捕まえようとするのは危険。被害を拡大させかねない。咬まれた瞬間には棒で叩かれたような激痛。傷口はニホンマムシは大きなキバの跡が2つ、シマヘビでは小さな点のような歯型の咬み跡が残る。日本でマムシに咬まれる人は1年間に2,000人ほど。数名が死亡する年もある。手遅れのなかにはマムシ咬症を軽く見て、病院に行かず治療が遅れたことによるものも含まれる。＜シロマダラ＞日本固有種。熱帯、温帯に住むマダラヘビの仲間では最北に生息する最小種、夜行性で個体数が少ない。北海道で生きて捕獲確認されていなかった。昨年4例が追加され、道内での確認例が9例（札幌市2、函館市2、石狩市3、七飯町1、奥尻町1）しかなかった希少種のシロマダラヘビの捕獲報告を、映像で解説。本州以南のものと全く同じ体なのか今後調査をする。現在は円山動物園で展示されている。

（記録 須田 節）



地方研修会（旭川）のご案内

明治以前、上川盆地には石狩川の恵みと盆地・段丘の地形を生かしたアイヌ民族の穏やかで活気のある暮らしがありました。自給自足にとどまらない、優れたシロザケやヒグマの捕獲技術を基にした、ダイナミックな生産と交易があったことが分かっています。新しいアイヌ民族像を考古学者である旭川市博物館副館長、瀬川拓郎さんに語っていただきます。

また、すぐ近くの神楽外国樹種見本林は小説

「氷点」の舞台となり、三浦綾子文学館もあります。外国樹種の大木が立ち並ぶ様子は壮観であり、木々のさまざまな姿を見ていただきます。

公式プログラムは日帰り（午後4時）で終了ですが、オプションとして、好評だった昨年と同様、旭川市東鷹栖の「八線小屋」にて宿泊付きロング懇談会を開きます。翌朝は突哨山を散歩して解散します。ご参加をお待ちします。

日時：2012年8月25日（土） 午前10時～午後4時

集合：午前10時、旭川市博物館ロビー 旭川市神楽3条7丁目（無料駐車場あり）

（JR旭川駅横に「氷点橋」が新設され、駅から徒歩15分と近くなりました。
アクセスは博物館ホームページをご覧ください）

内容：午前10時から、自然と歴史講演

博物館副館長・瀬川拓郎さん 「旭川のアイヌ民族の暮らしと自然」

昼食後、午後から神楽外国樹種見本林の観察会

参加費：無料。ただし、博物館館見学の場合は300円

持ち物：昼食、雨具、虫除け、帽子など

■オプション

25日夕方から東鷹栖「八線小屋」にて、夕食と懇親会、宿泊。

26日は希望者で近くの突哨山を散策、昼ごろ解散

会費：2000円（25日夕食、26日朝食、飲物込。宿泊無料）

持ち物：寝袋、マットレス、着替え、洗面道具など

■申し込み 原部剛 ファクス 0166-37-2462

当日連絡：090-8903-3001（山本牧）メール：maki@ta2.so-net.

「第23回滝野の自然に親しむ集い」参加のお願い

北海道自然観察協議会「滝野の自然に親しむ集い」実行委員会

「滝野の自然に親しむ集い」の日程が下記のようにになりました。

たくさんのお子様とその家族と過ごす2日間です。指導員としてのフォローアップ研修にもなります。多くの指導員の方々のご参加、ご協力をお願いいたします。ご協力いただける方は担当者へご連絡ください。

指導員参加費：3,700円、 実施日：8/11（土）～8/12（日）

実施場所：滝野自然学園 内容：せせらぎウォッチング・夕食作り・キャンプファイヤー・ナイトハイク・星空ウォッチング・自然観察ハイキング他

連絡先：畑中（011-581-5439） 池田（011-708-6313）

*7月1日（日）まで参加される方はお知らせください。ご都合の悪い方は1日参加でも結構です。

- ・事前の下見を実施します。1回目は7/15（日）・2回目は8/4（土）
- ・集合場所と時間～地下鉄南北線自衛隊駅裏口に9：00集合 14：00解散予定
相乗りで現地（学園）に入り、下見と打合せ。
- ・昼食、凶鑑、双眼鏡、ルーペ（あれば）準備 小雨決行
- ・車：札幌方向から「東光ストア」前信号を左折、地下鉄シェルターに沿って50M

クリンソウの群落

兵庫県 磯江 英雄

昨年開催された449回自然観察指導員講習会北海道(6月17日～19日)に兵庫県から参加し、会を運営されていた北海道自然観察協議会に入会させていただきました。現職の時には、このような講習会に参加することができず、今春退職したのを機に参加させていただきました。北海道は、学生時代にJR(旧国鉄)の周遊券で有効期間ぎりぎりの21日間滞在して、大沼公園・洞爺湖・大雪山系・利尻・礼文の山登りを主体に旅行したのを思い出します。就職してからは、スキーで何度か北海道に来る機会はありませんでしたが、北海道の自然を観察するような機会はありませんでした。

講習終了後4日間、大雪の麓から知床まで行ってきました。特に印象的だったのは、知床半島です。北海道の皆さんはよくご存じだと思いますが、エゾシカによって高山植物のほとんどが食べ尽くされ、残っているのは笹とワラビという状況です。今では、食べる植物がないため、あまり好まない笹までも食べているそうです。

遊歩道を歩くと、そこかしこにエゾシカがいて、近くによっても逃げようともせず平然と木の葉を食べています。私の住んでいる兵庫県も

シカが異常に増え、畑の作物・庭の木や花が食べられる被害が問題になっています。兵庫県のシカは、エゾシカと違い人を見るとすぐに逃げてしまいます。

笹で思い出すのが、兵庫県の多紀連山三嶽で数年前に見つかったクリンソウの群落です。日本の固有種であるクリンソウはサクラソウの一種で、一本の花軸に数段輪生した花をつけることから九輪草と名付けられたそうです。それまで、笹で覆われていたためその存在が知られることがなかったのですが、花を咲かせた笹が一斉に枯れたために見つかったそうです。写真は、今年の5月に撮影したもので、人の手が入ったように群生しています。周りには、枯れた笹が残っています。幸い、クリンソウは鹿が食べない忌避植物であるため、笹枯れ後は増えているようです。もちろん、地域でクリンソウを守る会を立ち上げて、業者などに採取されないように注意しているそうです。実は、先週スキーで北海道に来ていました。今年は、12月としては雪が多いようですね。これから厳しい寒さが続くと思いますが、皆さんお元気で活躍されますように。また、企画に参加させていただきますので、その際はよろしくお願ひします。

(2011年12月受け)



クリンソウの群生地

クリンソウを守る会の立て看板

枯れた笹の残骸

野付半島からこんにちは！

中標津町 兼重 宏子

オホーツク海根室海峡に小さく突き出た全長 26km の半島は豊かな漁場。森、湿地草原、干潟が広がり、生き物たちの自然豊かな楽園でもあります。目の前には国後島、知床連山から雌阿寒岳まで道東の美しい山並みが一望。特に早春には海に浮かぶ残雪の知床連山が美しく迫力満点。半島付け根から先端まで見る場所により山並みの景色が変わる醍醐味も半島の地形ならではの。春の野付半島ミニガイドでした。私たち野付半島ネイチャークラブではこの自然環境に親しみながら観察会を通して調査情報を共有し活動。年々やせ細る半島。増えているシカを、ハチを、食性状況を見逃さず、春一番ピクニックは半島先端まで歩く遺跡探訪を予定。海岸清掃、外来生物一斉防除、動植物調査、講演会、探鳥会、音楽コンサートなど主催。半島ゴミ拾い、セイヨウタンポポ抜きは

地元関係機関、学校、企業も参加。豊かな漁場と自然環境を学ぶ「野付学」を昨年から地元野付小学校が授業で取り組み始めました。次世代へ継承する地域作りも大切に今後も野付半島ファンとして盛り上げていきます。詳細はホームページ「野付半島ネイチャークラブ」をご覧ください。観察会一般参加も歓迎。ネイチャークラブ会員募集中。



ホームページ「野付半島ネイチャークラブ」をご覧ください。観察会一般参加も歓迎。ネイチャークラブ会員募集中。

変種クロミノヒダカエンレイソウ発見！

江別市 森 繁寿

2011年5月11日、野幌森林公園を散策中、2株の草花が目にとまった。

それはエンレイソウに似ているようだが、初めて見る草花であったので観察してみたところ次のことがわかった。

1. 5月18日時点での草丈は、約29cm。
2. ガク片の輪郭部は、淡赤色を呈し、かつ先端は三角状に鋭くとがっていた。
3. 2株のうち、一方の株には、赤色の花弁が3枚確認されたが、他方の株には短い花弁が2枚程度確認された。

上記1~3の特徴を具備している草花チェックしたところひとまず「ヒダカエンレイソウ」であることがわかった。しかし、この時点では

果実(子房)の形や色等については



花弁3枚

小花弁2枚

果実(暗紫色)

不明確であった。そこで6月11日に再確認したところ草丈は45cmで、ガク片の中心には「角張った暗紫色で卵形の果実」が確認できた。

更に詳細について「絵とき検索表Ⅱ」で調べてみた。

その結果、ヒダカエンレイソウの変種で「クロミノヒダカエンレイソウ」と判明した。

ちなみにヒダカエンレイソウは、エンレイソウとミヤマエンレイソウの種間雑種とのこと。

野幌森林公園で人知れず自生している貴重なヒダカエンレイソウの変種、クロミノヒダカエンレイソウの成長を見守りながら時折、観察も続けていきたい。



札幌市北区 北大構内 2011/11/3

イチョウ並木とエルムの紅葉を楽しもう

行楽日和の「文化の日」は何年振りでしょうか。観察会参加の人数も多く、一緒に晩秋の北大構内を楽しみました。

石碑のアポイ岳に多い超塩基性のかんらん岩やメアリー夫人寄贈のハルニレ、南門などを見て、中央ローン～農学部～農場横～花木園～（ポプラ並木）～大野池～イチョウ並木のコースを取りました。コウヤマキやメタセコイヤの球果、ルブルムカエデ、サトウカエデ、イタヤカエデ、モミジバズカケノキの2段の果実、アカナラ、ミズナラ、マユミ、ハリギリ、ブナ、ケヤキ、イチョウ、アーノルドサンザシ、エゾサンザシ、エゴノキ、つる性植物のツルマサキの花やノブドウ、ヤマブドウ、ツルタデ、アメリカタデ、ガガイモ、ツルウメモドキ、オオスズメウリなどの実を観ました。樹皮から出す気根と巻きひげ先端にある吸盤に、名前の由来通り「つたう」植物の強さを感じ合いました。 須田 節

旭川市 突哨山 2012/3/20

天候・雪(吹雪)

新雪の上、大勢でなごやかに歩く

あいにくの吹雪の日。集合は突哨山駐車場だが、実際の登り口である「カタクリ広場」まで参加者を移動させる。

突哨山駐車場の天気からは、中止にしようかと思ったが、カタクリ広場ではそんなことはなく、観察会を実施する。

今回一般の参加者は37名、指導員入れて計43名と、今までにない多い人数。

2月末に道新にこの観察会の案内が掲載されたことが大きいと思われる。この日、そして前日の雪降りて動物の足跡は見られず、新雪の上をスノーシューで歩く。アズキナシの大木の周りを参加者で囲んで木の成長を考えたり、エゾヤナギの珍しい冬芽、シカが食べて削られた木、今も残るセミの抜け殻がついた木等の話。指導員の話聞きながら大きく反応を示す人、木から落ちる雪に喜び子供たち等、なごやかな雰囲気の中、林の中をスノーシューで歩いた2時間だった。

原部 剛

苫小牧市 北大研究林 2012/1/15

天候 晴れ

掲載紙 道新・読売・苫小牧民報

野鳥・冬芽・動物の足跡

今年は雪が多く寒い日が続いています。当日の出発の時は晴れて、-7℃位でしたが、うす曇になり気温はそのままでした。野生動物への餌付けの問題点を述べ、餌付けをしないよう話をし、2班に分かれて始めました。例年よりシカの足跡やフンが多い様に思いました。ウサギ・リス・テンの足跡らしきものも見ました。キツネとイヌの足跡の違いを解説、冬芽や葉痕などの観察、マツ類の球果やリスの食べ跡、ホオノキの果実など実物を見ながら進めました。最近は餌付けをしなくなった為か、近くまで来る小鳥はいませんでした。カケス・マガモ・ホオジロガモなども見ました。 谷口 勇五郎

札幌市北区 北大構内 2012/4/21

天候 晴れ

春の北大構内 ～原始林～遺跡保存庭園～

トリカブトによる食中毒が発生したので、原始林のトリカブト・ニリンソウ・バイケイソウ・ドクニンジン・シヤクなどの話と札幌市発行の「庭や野山の毒草ハンドブック」を配布して注意を呼びかけました。その先の遺跡保存庭園、擦文時代は小高い見通しのよい所に堅穴住居が建てられた場所ですが、夏は草丈が高くなり人を寄せ付けず、大木のヤチダモ、シンジュ、ポプラ、ハルニレ、ヤマグワ、ハンノキ、オニグルミ、ノイバラやオオハンゴウソウなどが繁茂し、想像が付きません。4～5家族が暮らした集落遺跡の穴が30ほどで、家の柱が腐っていると近くに家を建てて、その度に穴が増えたそうです。

キクザキイチゲ、アズマイチゲ、キクバオウレン、フキタンポポ、ニオイスマレ、ミズバショウ、エゾヤナギ、オノエヤナギ、ネグンドカエデ、マンサク、ハルニレ等を観ました。

須田 節

天候 晴れ

都市中の造成公園「百合が原公園」の北方系の花と鳥たち

牧場経営や野菜栽培を行っていた農家の跡地が公園に生まれ変わりました。その名残としてサイロや道路沿いに植えられていたポプラ並木が残されています。

シナマンサクとハルニレの花やモクレンの花芽、百合原池にマガモ、園内でオオセグロカモメ、アカゲラ、ヒヨドリ、キジバト、アオジ、クロジ、カワラヒワ、ハクセキレイ、シジュウカラ、ヒガラ、ハシブトガラ、カラス、ベニマシコ、ツグミを観察できました。

ロックガーデンの散策で塩基生植物や石灰岩植物について触れ、高山植物は生育地にあるのがよいことを伝えました。チオノドクサ、チューリップ、キバナセツブンソウ、クリスマスローズなど外来種の花が目立ちました。

須田 節

春の妖精

前日の雨も晴れ上がり、森の妖精”スプリングエフェメラル”が、元気いっぱい私達を迎えてくれました。

参加者15名、指導員5名を2班でスタート、はじめに森の屋敷林を代表する樹高約20m、直径約75cmケヤキ、山菜取りで間違えやすいニリンソウと毒草オクトリカブトの見分け方、「アイヌ民族の教えのようにフクベラは、花が咲いてから採ることを肝に命じておくべき」と説明がありました。

つづいて、シラカンバの雄花序は短枝の枝先に芽花序は枝の先端のつくことを、目の高さで観察、後半は雌雄異株のヤチダモ、フッキソウ、自家和合性の性質を持つエゾエンゴサク、オオアマドコロの芽吹き、雄性両性花のバイケイソウの栄養繁殖は、開花個体のみでおこなわれ、数年間隔「4~5年に1回」で起こる一斉開花、環状群の話、アカゲラの営巣、キバナノアマナ、シラネアオイ、エンレイソウ、ニリンソウと、カタクリ、フクジュソウの開花は終わっていましたが、参加者と指導員は森の主演春植物から、たくさんの”エネルギー”をもらうことができました。

池田 政明

天候 雨

園内の早春の足音

朝から降り続く雨。

ただし、この雨は優しく、静かな春の雨。予想外の参加者が集まってくれました。

ここ何日かの、夏日になるほどの高温に、5月1日に開花したサクラが2日には満開になるなど、植物もとまどいを隠せない様子。

園内では、マンサク、ミズバショウ、キバナノアマナなどはほぼ終わり、アキタブキの雌株も「臺(とう)が立つ」ていて、いつもの年とはちょっと様子が違う。

オオタチツボスミレ・シラネアオイ・ヒトリシズカは今が見ごろ。

雨の日にしか見ることの出来ない、ブナの樹幹流を見上げ、雨にぬれる新緑に感動する。静かな観察会でした。

山形 誠一

早春の足音

数日来の雨も止み、初夏を思わせる陽光が溢れた絶好の観察会日和となりました。連休最終日であった為か、参加者は少なかったが、皆さん熱心で、知識も豊富な方ばかり。私の説明を良く理解し、反応も素晴らしく、楽しい観察会となりました。

最近の高温で、折角のミズバショウは苞がへたってしまいましたが、かなりの数は頑張っていたし、ザゼンソウの残がいにもおめにかかり、一同大喜び。

公園全体にコウバイの香りがたちこめ、木道からは、エゾノリュウキンカ、フッキソウ、エンレイソウの群落が見られ、傾斜面には、ナニワズ、オオバナノエンレイソウ、ミヤマエンレイソウ、チゴユリに大喜びでした。

内容的には、例年より一足遅い春の足音を充分に感じる事が出来ましたが、開催日とPRに工夫が必要であると反省しています。

根岸 徹



参加者の声



野幌森林公園

(11/9/25)

札幌市手稲区 小山 正美

観察会の日は暑いくらいの良い天気でした。

過去何回も、この地で行っていらっしやると言うことでおなじみさんもいらっしやたようですが、私は今年観察指導員になりたてのほやほや。

しかも、いままで植物や木々には「存在するだけでいい」で、名前や生態など何も知らないだけに今年からは色々学ばせて頂こうと出席したのです。

この日は、植物が種子を有しているのが多くてどの様に自分の命を繋いでいくのかの説明が始まりました。とつてもわかりやすい説明でした。

今まで積極的に名前を覚える気がなかった私ですが、一つ一つの名の由来や一生を少しでも知ることによって今までのなかった興味や楽しさを覚えました。そのものを良く知ると、愛着も芽生えますし、気にもなります。気になるとまた、行きたくなるし視野も広がり大きなフィールドの中の一点でなく全体を知りたくなります。人間同士も知る事が必要な様に、与える一方の自然の声を理解力の乏しい頭で精一杯感じて生きたいなど観察会を通じて思いました。

札幌市北区屯田防風林

(12/2/26)

札幌市北区 井澤 清美

今回の屯田防風林冬の観察会は新聞で知りました。屯田防風林は自宅から近く時々散歩に行ってますが、冬は寒く足が遠のいていました。そこで今回観察会に参加させて頂きました。最初、観察場所は防風林だけと思っていましたが、防風林までの途中で創成川の冬鳥を観察しました。

下水処理場からの温水で川が凍らず鳥たちの格好の越冬場所のようでした。マガモ、コガモ、カイツブリ、ヒドリガモなどがいました。潜水する鳥としない鳥で尾の形が違うことを知りました。

防風林ではヤマガラやアカゲラ、ツグミ、ヒヨドリなどがいました。また、オニグルミやイチョウ、シラカンバ、カツラなどの冬芽を観察しました。葉痕が羊の顔に見えたり、イチョウで短枝、長枝のことを学びました。寒風が吹く中での観察会でしたが、時折日も射してとても楽しい一時でした。ありがとうございました。

会計からのお願い

会費の納入はお早めに

今年度(平成24年度)の会費納入状況は今のところ、会員のおよそ2分の1の方が納入されています。まだ納入されていない方は、3月発送の会報に同封した振込用紙で納入ください。

2年以上未納の方へのお知らせ

会報に同封して振込用紙を送りました。会費納入のご協力をお願いします。

★退会の申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。

届けが出されるまで、会費をお支払いしていただきます。

★郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 畑中 嘉輔 Tel 011-581-5439



ウォッチングプラン

開催予定日		テーマ	観察地	集合場所・時刻・注意事項	交通機関	連絡先
7月8日	(日)	「平岡公園」観察会 人工湿原の変わる様子を見よう	札幌市清田区 平岡公園	平岡公園第一駐車場(厚別中央通沿い) 10:00 集合～12:00 解散 小雨決行	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス「大66」ジャスコ平岡店行・平岡5条3丁目下車(前方左の緑地歩道を200m, 徒歩5分)	佐藤佑一 011-881-5336
7月14日	(土)	「石狩浜」観察会 日本一のハマボウフウ群落	石狩市 ハマナスの丘公園	石狩市ハマナスの丘公園ビジターセンター 10:00 集合～12:30 解散 日陰がありません。帽子をお忘れなく。	中央バス札幌ターミナル8:30 発「石狩」行き乗車 終点「石狩」下車 徒歩20分	与那覇モト子 0133-74-7952
7月15日	(日)	親子観察会 星置川の生きものさがし	札幌市手稲区 星置川	JRほしみ駅北口前駐車場 10:00 集合～12:30 解散 濡れてもいい靴 着替え	JRほしみ駅下車	横山武彦 011-387-4960
7月15日	(日)	「夏の円山公園」観察会 円山登山	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待合所 9:00 集合～12:00 解散	地下鉄東西線円山公園駅下車	山形誠一 011-551-5481
7月22日	(日)	「夏の錦大沼」観察会 葉の形のいろいろ	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場8:50集合・9:00～12:00 解散 昼食持参・雨天原則決行・強風日中止 あれば双眼鏡・ルーペ・図鑑など持参	自家用車のみ	佐々木昌治 0144-67-2022
7月29日	(日)	親子観察会 藻岩山の生きものさがし	札幌市南区 藻岩山スキー場	定鉄バス「南34条西11丁目」バス停前 9:00集合～12:00スキー場駐車場解散 雨天中止 ※小4以下は保護者同伴 帽子、水、捕虫網持参	札幌駅バスターミナル7番乗り場、定鉄バス[54]「真駒内本町行き」乗車、または地下鉄南北線真駒内駅バスターミナル、定鉄バス「南4」市立病院行き乗車、「南34条西11丁目」下車。	須田 節 011-752-7217
8月11日 ～ 8月12日	(土) ～ (日)	「第23回滝野の自然に親しむ集い」 滝野自然学園親子1泊2日観察会 夏休み野外学習(親子・子供特集)	札幌市南区 滝野自然学園	申し込み方法、申し込み締切など詳細はP9参照 決まり次第、新聞、広報誌などでお知らせします お問い合わせは「連絡先」の指導員まで	地下鉄真駒内より中央バス「滝野公園」行き「アシリベツの滝」下車徒歩3分	畑中嘉輔 011-581-5439
8月25日	(土)	晩夏のカタクリの森 晩夏の花と気の早い実たち	北見市端野町 たんのカタクリの森	北見市立端野図書館前 10:00 集合～12:00 解散 共催 たんのカタクリと森の会	北見バスターミナル「美幌津別線」9:20 発「美幌津別線」乗車 「屯田の杜公園」下車1分	竹林正昭 0157-56-3357
9月1日	(土)	「医療大学薬草園とその周辺」観察会 秋の花々と木の実 医療大教授の説明あり	当別町医療大学薬草園および背後の丘陵地	医療大玄関前 9:30 集合～13:00 解散 必要に応じて昼食持参	JR学園都市線札幌発8:29「医療大学」行き乗車 「医療大学駅」下車	与那覇モト子 0133-74-7952
9月8日	(土)	「秋の紋別岳」観察会 秋の花・樹木	千歳市 支笏湖外輪紋別岳(864m)	中央バス支笏湖湖畔バス停前 9:40 集合～15:30 解散予定 登山靴不要 昼食持参	JR札幌駅7:50 発「エアポート」8:19 千歳駅着 千歳駅前中央バス8:50 発「支笏湖畔行き」支笏湖湖畔下車 有料駐車場有	谷口勇五郎 0144-73-8912
9月9日	(日)	「平岡公園」観察会 人工湿原の変わる様子を観よう	札幌市清田区 平岡公園	平岡公園第一駐車場(厚別中央通沿い) 10:00 集合～12:00 解散 小雨決行	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス「大66」ジャスコ平岡店行・平岡5条3丁目下車(前方左の緑地歩道を200m, 徒歩5分)	佐藤佑一 011-881-5336



【理事会だより】

☆第2回理事会(6月5日)

議事より

・総会・第1回理事会の反省

・各部報告

研修部(全道・地方研修)

観察部

編集部

滝野の集い



バイケイソウの環状個体 五戸の森(池田 政明)



北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は

郵便振替口座 02710-1-8768

会 計 畑中 嘉輔 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13

観察会保険料は

郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台3-13-5

TEL/Fax 0134-51-5216

E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp

観察会報告書・資料は

観 察 部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目
12-14

TEL/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

退会、住所変更の連絡は 事務局 杉山 ルミ 夕張郡長沼町宮下3丁目1-7

TEL/Fax 0123-88-4978

事故発生等緊急時は

アスカ・リスクマネジメント 担当 本間氏 TEL 011-873-2655

投稿や原稿は 編集部長 村元 健治 札幌市手稲区星置2-8-7-30

TEL 011-694-5907

表紙写真 森 繁寿

《編集後記》☆山本 牧氏の「ヒグマを知ろう」最終回の掲載を次号に予定しています。



会のマークはNature(自然) Observation(観察) Conference(協議会)の頭文字をとったものです。北海道の図と合わせて北海道自然観察協議会を表します。

NOCは、「ノック」と読み、自然の扉をノックし自然に親しみ、知ることへの入口を意味します。N(窒素)、O(酸素)は大気、C(炭素)と北海道のH(水素)は、生物で北海道とその環境ともいえます。緑の北海道は、今後も自然豊かな北海道でありますようにの願いを込めています。2004年の創立20周年を契機に制定しました。



自然観察 2012年6月15日/第102号 年4回発行
(会員の『自然観察』購読料と郵送料は会費に含まれています。)

発行 **北海道自然観察協議会**
編集 **北海道自然観察協議会編集部**